

# 「防風保安林の効果と更新方法」パンフレットを作成しました

北海道内の防風保安林は高齢化しており、効果を維持するためには、更新（林帯の一部を残して伐採し、植栽すること）が必要です。そこで林業試験場では、防風林のもつ多面的な効果、伐採時の留意点、植栽樹種の選び方をまとめ、北海道水産林務部林務局治山課と共同でパンフレットを作成しました。

伐採時の留意点として、伐採幅だけでなく林縁の残存率も防風保安林の減風効果に影響することがわかりました（図-1）。林縁は枝葉密度が大きいので、少なくとも一方の林縁は残すべきであると考えられました。

植栽樹種については、いずれの樹種も一長一短あったことから、複数樹種の組み合わせにより短所を補う方法を提案しました。例としては、風倒害に強い樹種を風上側に植えて、風下側の減風効果の大きい樹種を風倒害から守る方法（図-2）や、カラマツの風下側に常緑針葉樹を植えることで、カラマツから農地への落葉落枝と常緑針葉樹の冬季乾燥害を軽減する方法（図-3）が挙げられます。

本パンフレットは、林業試験場のホームページでダウンロードできます。

<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fri/kanko/fukyu/pdf/boufuurin.pdf>

（道東支場 岩崎健太）

## 防風保安林の効果と更新方法



目次	
防風林のもつ多面的な効果	2
防風保安林の更新方法（伐採時の留意点）	4
防風保安林の更新方法（植栽樹種の選び方）	6

北海道 水産林務部 治山課  
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場

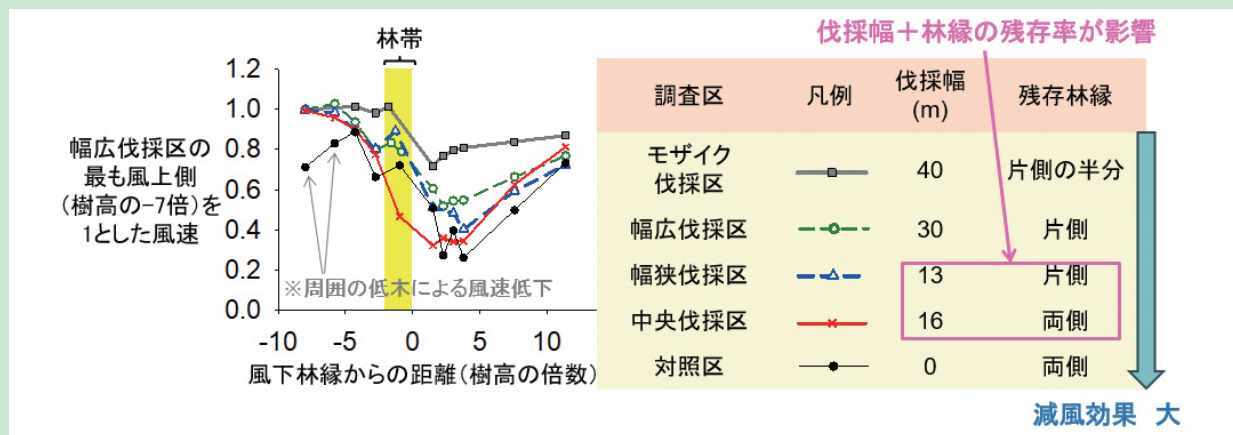


図-1 平均樹高 25 m、林帯幅 50m のカラマツ防風保安林で実施した伐採方法別の減風効果  
モザイク：風上側 20m 幅で残存していた林帯について千鳥状に 10m 幅の残存ブロックを設定して伐採  
幅広・幅狭：林帯の風下側を表中の伐採幅で伐採、風上側の林帯は残存  
中央：林帯の中央部分を伐採、風上側と風下側の林帯は残存

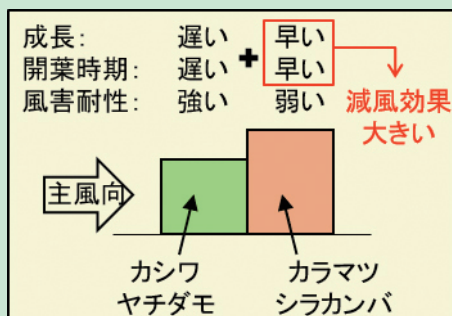


図-2 減風効果と風害耐性が異なる樹種の組み合わせ

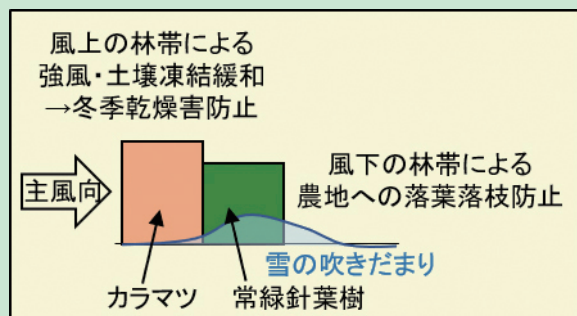


図-3 カラマツと常緑針葉樹の組み合わせ

林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166  
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024  
道東支場 TEL 0156-64-5434 FAX 0156-64-5434  
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164

ホームページ <http://www.hro.or.jp/fri.html>  
facebook <https://www.facebook.com/ringyoshi>

発行年月 令和2年9月  
発 行 地方独立行政法人  
北海道立総合研究機構  
森林研究本部 林業試験場  
〒079-0198 美幌市光珠内町東山